

今週のメニュー

[トピックス](#)

お台場「日本科学未来館」に快適な木陰の空間
- 塩ビリサイクル材使用のフラクタル日除けを設置 -

[随想](#)

古代ヤマトの遠景（37） - 【王家の区分】 -

信越化学工業（株） 木下 清隆

[編集後記](#)

トピックス

お台場「日本科学未来館」に快適な木陰の空間
- 塩ビリサイクル材使用のフラクタル日除けを設置 -

最先端科学技術を展示・紹介しているお台場の「日本科学未来館（館長 毛利 衛氏）」のエントランスアプローチに塩ビの100%リサイクル材を使用したフラクタル日除けの木陰スペースが6月24日にオープンしました。来館者に木陰の涼しさを味わっていただける場所として8月末まで設置されています。

フラクタル日除けは、京都大学大学院人間・環境学研究科の酒井敏教授によって考案され、積水化学工業（株）が量産試作した開発商品です。フラクタル構造は木に繁る木の葉を模倣する形状となっており、風通しが良く、熱のこもらない、まさに木陰に匹敵する日陰を作ることができます。成型するには複雑な構造であり、さらに、耐久性、耐候性、難燃性等の性能が要求されることから、これらの特性に合った塩ビが素材として使われています。実は、この塩ビは新品でなく、すべて使用済み窓枠などからの再生塩ビを使っています。来館者に木陰のような快適な空間を提供し、涼しさを体感してもらうと共に、「日本科学未来館」の協力を得て各所で温度を毎日測定し、日除け効果を示す定量的なデータを数多く蓄積することを計画しており、今後の改良や開発に役立てていくとのことです。



日本科学未来館
- エントランスアプローチ -



フラクタル日除け（内側）

ブラウン、ベージュ、緑色のカラフルな塩ビ製のフラクタル日除けの最小ユニット（約10cm角のもの）約20,000個が京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科の角田暁治准教授、西村雅信准教授の両氏によってデザインされており、すばらしいオブジェクト

に仕上がっています。また、樹木風に製作された支柱には「森はすずしい」「街は暑い」「小さいことはいいことだ」「シェルピンスキーの森」などフラクタル日除けの特長を短い言葉で表現したパネルとディスプレイの展示によって分かりやすく解説されています。

新規性が高いリサイクル塩ビの用途開発案件であったことから、このフラクタル日除けの開発にあたり、塩ビ工業・環境協会は塩ビリサイクル支援制度において協賛しています。

展示初日は、早くも関心のある企業数社がこのフラクタル日除けの見学に来られるなど好調なスタート切りました。お台場に来られる機会があれば、フラクタル日除けの木陰に是非お立ち寄りください。

なお、「日本科学未来館」に設置されたフラクタル日除けが産経新聞6月30日付け朝刊のトップに“幾何学で涼しく”の見出しで美しい写真と共に紹介されています。(了)



展示パネル - 「森はすずしい」

随想

古代ヤマトの遠景（37） - 【王家の区分】 -

信越化学工業（株） 木下 清隆

これまでに初代倭王の誕生からその後の展開について述べてきたが、ここらでこの倭王家の整理をして、今後使用する各倭王家の名称について説明しておきたい。

前回までの話は、2世紀後葉に倭国内に大乱が起きたが、2世紀末から3世紀初頭に卑弥呼を立てることによって、その大きな争いは収まった。このとき倭国連合が成立し、彼らの次なる目標として東国討つべしと掲げられたことから、東国の入り口に位置する大国狗奴国制圧がその第一目標となった。このような状況から、卑弥呼は狗奴国との戦の矢面に立たされるが、248年頃、狗奴国制圧の夢も果たさずに没する。後継者として13歳の台与（とよ）が立てられるが、この女性の時代は短く、その後に出雲の王が初代倭王として推戴され、倭国連合はここに初めて男王を迎えることになる。この王の下に東国制圧は再開されるが、その事業は後継倭王に引き継がれ4世紀中葉には、殆ど東国の制圧は終わった、と言うものである。

以上の古代史概要説明の中で問題となるのは、「後継倭王」の意味である。これは初代倭王の血縁者なのか、或いは力のある他国のリーダーなのかの問題である。結論から言えば、血縁者だったと考えられる。理由は、先王の死の度に倭国内諸国から新たな王を選ぶのが極めて困難であったことが挙げられよう。2世紀末に倭国連合が出来たとき、彼らは自分たちの上に男王を置くことを、頑として受け



成務天皇陵

入れなかった。だから卑弥呼なる女性が妥協の産物として選ばれたのである。更にその後継者選びでも男王を立てることで揉め、結局、年端も行かぬ娘をまた女王にすることで決着した。しかし、狗奴国が想像以上に手ごわく、女王ではどうにもならないことが分かってくると、頑迷な彼らもついに男王を立てることに賛成するようになる。当然反対者もかなりいたと考えられるが、とにかく男王已む無しが大勢を占めたと言うことである。このようなプロセスを考えると、初代倭王が期待外れの男だったら話は別だが、そうでなければ、その後継者に他国のリーダー、首長を改めて選ぶことなど、とても考えられないことになる。諸国間の争いの種になるような後継者選びを彼らはしたくなかったからである。

結論はどうかと言うと、どうも初代倭王は彼から見て期待以上の働きをしたようだ。その証拠が日本武尊である。この尊は初代倭王をモデルに創作されたところでは想定しているが、これが事実なら、当時であっても、初代倭王は極めて好印象の王であったことが想定できることになる。要するに倭国連合の王として申し分の無い人物であったと言うことである。このように考えてくると、初代倭王が亡くなった時、後継王は初代倭王の血縁者から選ぶと言うのは、諸王、諸首長の暗黙の了解だったと考えられる。更に彼らにはそれぞれ意中の人物があったはずである。「王の後は聡明な息子の だ」「いや、人望のある甥の だ」「なんといっても経験豊かな叔父の だ」といった具合である。このようにして、初代倭王の後継者は倭国連合のリーダー達の話し合いにより、その先王の血縁者の中から決められたと謂うことである。

一旦このような経緯で後継者選びが行われれば、以後は当然同じ手法が継承されることになる。ここに初代倭王につながる出雲の王家が誕生したと考えられる。要するに初代倭王から100年ほど経ってみると、歴代の王は全て出雲系であり、改めて呼称するならこれは「出雲王家」だ、と言うことなる。

このようにして誕生した出雲王家については、記紀にその複雑な系譜がもっともらしく縷々記載されているが、多くの部分は創作と考えられる。そのなかにある天皇名を改めて列記すれば次のようになる。

なお、頭の数字は、神武天皇を初代天皇としたときの代数である。ここでは神武天皇以下9代の系譜は創作された系譜としているので、省略してある。

10．崇神天皇、11．垂仁天皇、12．景行天皇、13．成務天皇、14．仲哀天皇

出雲王家は仲哀天皇で終わり、次に応神天皇が立つ。この応神天皇を初代とする王家を「応神王家」と名づけることにするが、その天皇名は次のように続く。

15．応神天皇、16．仁徳天皇、17．履中天皇、18．反正天皇、19．允恭天皇
20．安康天皇、21．雄略天皇、22．清寧天皇、23．顕宗天皇、24．仁賢天皇
25．武烈天皇

応神王家は武烈天皇で終わり、次に継体天皇が立つ。この天皇の系譜を「継体王家」と名づけるが、実はこの王家は現代の今上天皇まで繋がっている。ここでの話の対象となっている時代までの天皇名を列記すると以下のようなようになる。

26．継体天皇、27．安閑天皇、28．宣化天皇、29．欽明天皇、30．敏達天皇、
31．用命天皇、32．崇峻天皇、33．推古天皇、34．舒明天皇、35．皇極天皇、

36 . 孝徳天皇、37、齊明天皇、38 . 天智天皇、39 . 天武天皇、40 . 持統天皇

以上、出雲王家、応神王家、継体王家の三王家の紹介をしたが、応神王家以下についての誕生の経緯等は全て省略してあるので、今後少しずつ説明して行くことにする。また、この王家名を適宜使用して行くことにするが、その王家には以上のような天皇が含まれていることを意味する。(つづく)

前回の「古代ヤマトの遠景」(36)【東国の平定】は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/226/mag_226.pdf

編集後記

先週のレインブーツに続き、今週のトピックスでも塩ビ製品を紹介させていただきました。製品の発想がユニークで、しかもリサイクル材を使っているところは、正に、環境にやさしい製品といったところではないでしょうか？ 梅雨空の続くこの時期に気は早いですが、“風通しのよい日除け”として夏の日差し対策に活躍の場が広がるのが楽しみです。(HI)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録・解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp